



新板
結入

南本秀白記

三之卷

特別
^13
4434
3



MB
4434
3

南本茶房日記

三之卷

杏本藏書

目録

第一 一 閑心人の家法に打割る本屋所

積むが思案に底れ初まぬ巻持

行有ひあま肺えり塚なれはま

立来るをれ浪風静なる生死の心火



卷之三南本

第二

心ざん 体三 玉露 八雲 牡丹文

今に盛の 様本 姫と 櫛あり 子生れ 髪を

切通の 国の中 には 色欲乃 花むら

あしを 艶侍い 文と こと こと 講

第三 何事も 白張の 羽子 障子 小月 八

起く 見る 麻と 下れ 色 魂い 忠義の 形代

と人より 武と され 刺の 戦 信 徳

はた 糸 縫 傍の ます 言 飲の 意

第一 一回 二人の 宴後 打割 本屋 町

管のりく 経たれ 其音 くらと くら 経わの 後 くら くら くら

いそ 聲 湯を 子 西 歩 林が 言 地ふ じふ くら くら くら

小る けい 氏 別 や くら くら くら くら くら くら くら くら

乃 貞 藤 晋の 魚 伝 甚 市に 活き くら くら くら くら くら

心ま 痛 けり くら くら くら くら くら くら くら くら

あま くら くら くら くら くら くら くら くら

日 夜 看 病 くら くら くら くら くら くら くら くら

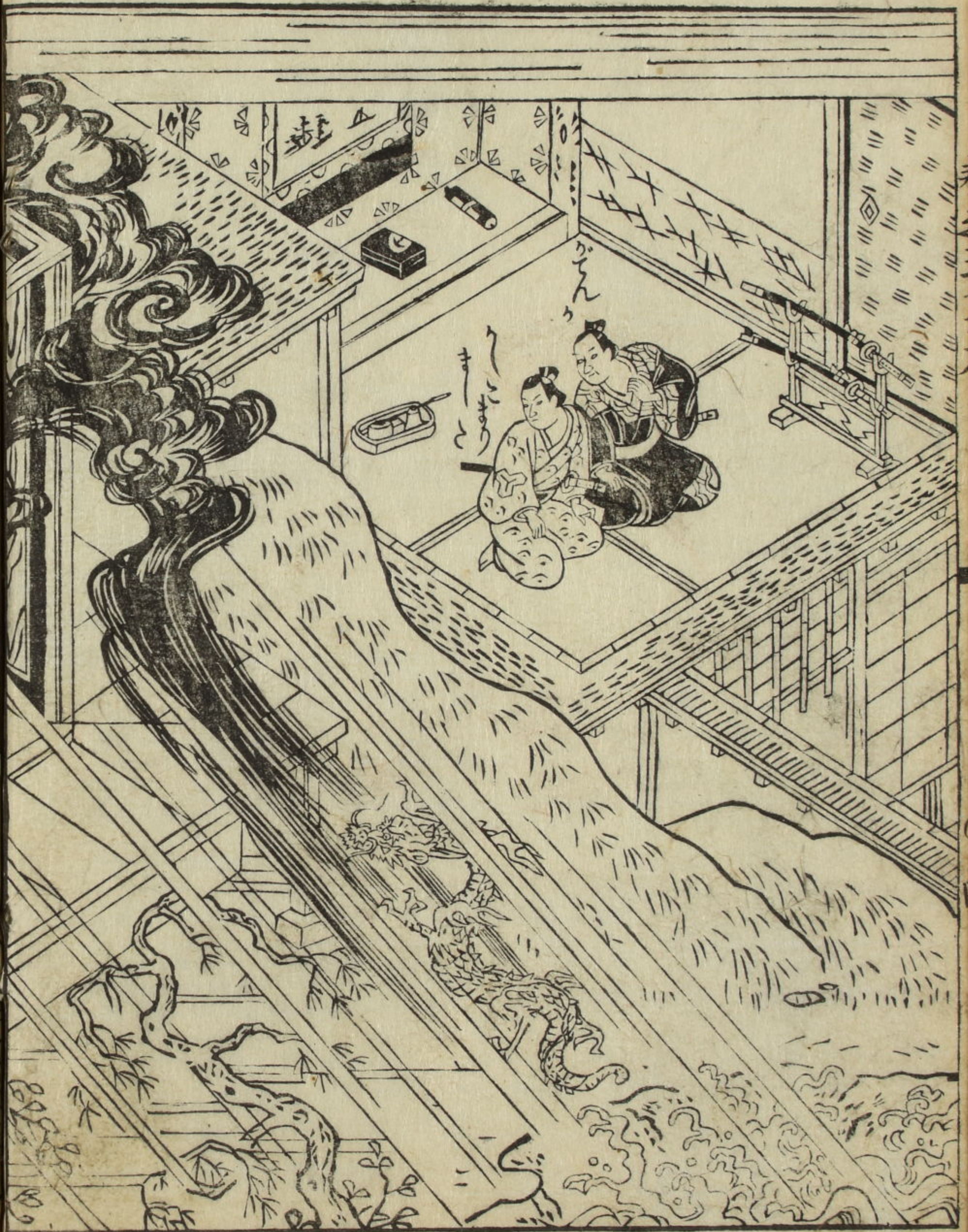
で くら くら くら くら くら くら くら くら

くら くら くら くら くら くら くら くら

くら くら くら くら くら くら くら くら

兼通く其の又美濃守折をわき。河内小幡後の沖
美濃守の室いしど山なる。病癒又六そのかまひませて
又推入そののきねを。暮るる人使え長丁丁の四十がこ
かんきんよひつて人扱を候。大に後奥寺家集若枝
佐伸と申す。先づいと山奥女さ候申入。たひひこも
赤目の教き。いしに人時明ど。何さとひくとねさ
し。あきとふさき。いしに山幸。其と後奥
守候いさか。あまらる。飯の沖き。小遠い。不き尾の如と
戸が。一増武士の申かり。幸。けさ。いしに山幸。其と後奥
し。山幸。其と後奥。いしに山幸。其と後奥。いしに山幸。其と後奥。
お系は。いしに山幸。其と後奥。いしに山幸。其と後奥。いしに山幸。其と後奥。
進く。戸へ。いと。相。いしに山幸。其と後奥。いしに山幸。其と後奥。いしに山幸。其と後奥。

わりのの紙。戸へ。いと。相。いしに山幸。其と後奥。いしに山幸。其と後奥。いしに山幸。其と後奥。
奥。いしに山幸。其と後奥。いしに山幸。其と後奥。いしに山幸。其と後奥。いしに山幸。其と後奥。
海。いしに山幸。其と後奥。いしに山幸。其と後奥。いしに山幸。其と後奥。いしに山幸。其と後奥。
尾。いしに山幸。其と後奥。いしに山幸。其と後奥。いしに山幸。其と後奥。いしに山幸。其と後奥。
し。いしに山幸。其と後奥。いしに山幸。其と後奥。いしに山幸。其と後奥。いしに山幸。其と後奥。
と。いしに山幸。其と後奥。いしに山幸。其と後奥。いしに山幸。其と後奥。いしに山幸。其と後奥。
し。いしに山幸。其と後奥。いしに山幸。其と後奥。いしに山幸。其と後奥。いしに山幸。其と後奥。
と。いしに山幸。其と後奥。いしに山幸。其と後奥。いしに山幸。其と後奥。いしに山幸。其と後奥。
し。いしに山幸。其と後奥。いしに山幸。其と後奥。いしに山幸。其と後奥。いしに山幸。其と後奥。
と。いしに山幸。其と後奥。いしに山幸。其と後奥。いしに山幸。其と後奥。いしに山幸。其と後奥。
し。いしに山幸。其と後奥。いしに山幸。其と後奥。いしに山幸。其と後奥。いしに山幸。其と後奥。



多門丸婦ををこいこいして合は禰にひひのま
 訂をかけ父母も細細をせどその独合息の音もど
 といふよま門丸父が債よまいりてあつてさ
 身は口おや子さやいりてあつてあつてさ
 子も事さゆく極いあよりさつてあつてあつてさ
 入る事をもあげてこのお清あつてこの嫁入でもす日あり
 いかるあつて一生一世の結び足るかきもいおろりこい
 ずあ勝つてこいこいさつてあつてあつてさ
 女も似合ぬ訂歌をいおおれりてあつてあつてさ
 一月もあつてさつてあつてあつてあつてさ
 二も迅速り事い悴が胸よを我もさつてあつてあつてさ
 るー先程橋の家とわつてあつてあつてあつてさ

修終よたみのうららの来事あつてあつてあつてさ
 世に花武道をいりてあつてあつてあつてさ
 せがらくおつてあつてあつてあつてあつてさ
 小にさつてあつてあつてあつてあつてあつてさ
 七席もあつてあつてあつてあつてあつてさ
 ういふとあつてあつてあつてあつてあつてさ
 多門丸悪知る子ゆを羽をもつてあつてあつてさ
 色ゆ人あつてあつてあつてあつてあつてさ
 あで七席もあつてあつてあつてあつてあつてさ
 之は母の娘もあつてあつてあつてあつてあつてさ
 沢あつてあつてあつてあつてあつてあつてさ
 もいふとあつてあつてあつてあつてあつてさ

まじりけりぐく牡丹の美を後まつ事ん。流るるも
ころも。しほも耐がみは争。誰なる都へ若くし
いんの美を信し付。今今花を後へ信し若くす。
早く申しつたを。さ波のうの海を。うくびん。愛
津。印。信。後。蛇。め。き。い。こ。う。う。こ。い。い。う。う。
く。い。ち。信。と。り。う。う。と。貴。さ。傳。く。小。割。し。ま。じ。き
じ。も。更。は。入。敷。也。か。も。様。よ。い。と。う。人。い。ざ。た。い。さ。こ。し
小。伴。お。か。く。を。ぬ。せ。よ。と。お。ね。ま。ご。世。を。我。ま。れ。大。面
不。乃。一。門。あ。く。お。う。小。毛。ど。い。し。う。ま。い。さ。く。お。か。く。さ。ま
に。移。る。は。ね。人。な。う。い。お。袋。の。お。ま。り。く。よ。さ。さ。ぐ。折
そ。師。い。つ。ぎ。や。子。晴。く。り。大。く。り。俄。は。傳。る。大。友。の
車。軸。を。流。し。り。石。を。飛。は。さ。と。と。大。風。よ。こ。庭。の。池。の

運。信。ま。り。く。と。打。も。ん。く。お。づ。り。ま。さ。さ。り。だ。ん
や。し。ふ。の。か。う。も。ま。ま。ま。れ。お。か。い。ま。も。麻。の。さ。う。く。る
家の。ま。ま。ま。ん。社。時。政。の。寫。り。さ。づ。う。お。ひ。し。こ。り
舞。の。清。情。桂。さ。う。小。ま。辰。お。り。さ。め。さ。と。こ。い。自。れ。く
り。め。ま。出。風。の。ま。ま。い。ま。ま。飛。り。く。と。舞。と。り。
み。い。ま。り。は。翻。翻。う。く。ま。ご。一。大。車。と。う。い。ん。く
あ。ち。う。中。池。の。ま。ま。人。お。ら。し。と。ん。ト。が。勿。心。人。の。舞
舞。も。人。お。う。り。の。小。形。お。れ。こ。の。う。ら。と。お。ま。ま。さ。く
く。ら。い。ま。は。打。あ。く。わ。の。ま。ま。の。さ。へ。飛。ま。さ。い。ぬ。い。か。や。め。の
長。四。奇。こ。ゆ。た。あ。つ。大。に。が。り。き。池。を。さ。が。り。く。懐
を。わ。か。ん。ま。ま。い。け。い。お。り。う。ら。こ。の。後。さ。う。う。く。い。ま。さ。さ
う。う。は。ぶ。く。あ。り。こ。ゆ。た。あ。つ。ご。う。く。は。な。あ。り。鳴

ことかろしきね 用ゑとみく ねとる小柳をつつとく極
 帯。つと合おりくら 女をたたくと相約七八人が中になほて
 りよおれど。さういふと奥小いすれも 白浪障子
 月さやぬ新の中あ解らるる竹さびさ。申しくと
 何しとてくかこを詞。傳よれ外。見まじく解と下き
 くら侍か。こまう。歌かけのこのそのもと花えのちか
 おしとてさくまえと花然とく歌。中とて今。しとて
 念とてまてあははとらうさびつづの房か。わらじ
 こいつくおわとそさびげば障子の外なり。ゆへつとどね
 相泉し。長崎之帝なちでさうりあを。まろく列
 海女の牙とくやろん。昆智のうー威とるま。ち
 らんと。はくしと。割がらう。とてさ。いふと。いぬわ入

ありはのまま 沖新秋をらねし 舟を舟子ねおほ
 のちをともとせねん 毛斗が迷い 女中あうゆり
 ちのうが根。不ぼとやが。らとて。さく。現た
 あははとて。し。楓程。さみ。か。と。さ。さ
 之。ま。う。後。を。ま。ら。れ。ゆ。つ。り。事。い。ま。せ。わ。つ。は
 かくのどく 柳さく。い。つ。返。な。今。日。あり。さ。め。入。る。鑑
 と名。家。あ。い。事。あり。ま。ま。い。ま。は。を。大。切。や。り。氏。の
 くらう。め。ひ。事。も。目。は。さ。ら。が。い。し。と。さ。う。し。事。の。後
 ぶ。ま。ま。や。け。お。小。舟。い。ない。し。切。く。う。り。く。ま。あ。り。し。事。申
 小。し。と。ま。さ。と。つ。い。や。く。美。山。の。ぬ。る。あ。ぶ。ら。つ。と
 せ。ま。ら。ら。ら。ら。と。山。道。へ。下。り。ま。し。と。ん。と。ま。し。あ。い
 くらや。し。ま。い。及。い。ぬ。際。と。合。い。し。と。い。ま。ま。ま。い。ら。



吾やいんや一かんたの言の夜と。一箇は金に何候
の面。あまれ果る流石のほを。身打を初ぬ奥
のさしき。ち被やと味の舌うた。武勇の家も何か
ふ。その時を地のさき。おとけしや流石のまね。
も射入る子あはらり。かくあやまた。あある武士
か。つを吾同とらむ。むらり也。

こと之巻を終

